

弘前城天守は
石垣改修に伴う
曳屋工事により
77.6メートル
移動しました！



参画だより

No.66
2018. 11. 30
弘前市民参画センター

弘前市マスコットキャラクター『たか丸くん』

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む
世界の格言・名言

こっそりと友をとがめよ
人前では友を褒めそやせ

レオナルド・ダ・ヴィンチ



- 弘前市民参画センター事業紹介「平成30年度第1回ひとにやさしい社会推進セミナー」 P 2
「hirosaki smart project 女性活躍推進異業種交流会」 P 3
「弘前市女性活躍推進企業紹介」 P 3
まなぼ「災害、私たちの備えは？」 P 4
おとこの気持ち聞いちゃいました「良い年齢を重ねましたね」 P 5
さんかくひとりごと「わたしの若いころには…」 P 5
ひとグループ紹介「弘前じえんだあ学習グループ～きづき～」 P 6
利用者・利用団体紹介「俳句集団・弦」ほか P 7
本の紹介「きょうだいさんのための本」 P 8
センターからのお知らせ P 8



平成30年度第1回ひとにやさしい社会推進セミナー



講師の佐々木孝子さん

7月18日、ひとにやさしい社会推進セミナーをヒロロで開催しました。今回は青森県立鶴田高等学校教諭で家庭科を教えている佐々木孝子さんが講師となり「未来を開く鍵 家庭科がおもしろい!!」〜次代を担う若者はここまで学んでいる〜と題し講演しました。

佐々木さんは家庭科教育について「以前は良妻賢母を目指し女子だけが学ぶ教科だったが、今では『生き抜く力を身に付けること』をキャッチフレーズに男女共修になっている」と話し、平成元年からは小学校から高等学校まで一貫して男女が学ぶようになり、授業内容が変化してきたと語りました。

現行の学習科目は家庭基礎と家庭総合に分かれており、青森県内の高校では8割弱の生徒が家庭基礎を1年、週2時間、70時間をかけて学んでいること。項目は「人の一生と家族・家庭及び福祉」

「生活の自立及び消費と環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」があると紹介。佐々木さんは「実際は65時間でできれば良いよう。家庭科は受験に関係ないと思われるが」と話した上で「大学入試の小論文のテーマは介護や福祉の問題、食品の安全や消費生活など家庭科で学んでいる領域がベースになっているものもあるなど受験にも生活にも必要な教科である」と述べました。

新入生の最初の授業では、高校卒業後数年でどれだけ生徒が就職を継続しているか具体的に少ない数字を突き付けることで生徒の気持ちに揺さぶりをかけていると佐々木さん。「全てが自分の思うとおり的人生ではないこと。自分がどういう人生を歩みたいか、そのためには何が必要か考えてもらうきっかけ作りをしている」と語りました。

さらに30年後の様々な人生のパターンを記入したカードを生徒に引いてもらい、書いてある人生について語ってもらおうというユニークな授業も紹介。セミナーの来場者もカードを受け取り参加しまし

た。「疑似体験をすることで、多様な価値観や生き方にふれてもらい、性別から一歩踏み込んで自立しなければならぬことが目的。人々が共に生きる社会や個人のありかたを考える機会になつていく」と話しました。

実習の授業で生徒達は調理やクリーニングの実験などを通して、生活を科学的な視野で学んでいると述べ「どの課題もまずは自由にやらせ、失敗してもそこから学んだことは身につくことが多い」と話しました。

消費者教育では、フリマアプリでのトラブル例や約款を調べたりトラブルになったときを想定し、実際に消費者センターに電話をかけた対応してもらって練習もしているとの紹介。「今の子どもたちはたくさん選択肢の中からものを選ばなければならぬ。どういう視点で選んだらいいのか、賢い視点で選択できるように体験させていく」と語りました。

家庭科を学ぶ課程で見つけた課題を解決していくホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動では、家庭や家族、学校や地域のための探求学習をしていると佐々木さん。「生徒自らボランティア活動

のためにアロマセラピーやハンドマッサージを学び活動にかかっている。高齢者や地域おこしにかかわることで、コミュニケーションが苦手だった生徒も課題対応能力が伸び活動を通して認められていると実感することで成長している」と紹介しました。

佐々木さんは家庭科について「少子化の影響で教員も半数になり、単位数も少なくなった。部活動ではない家庭クラブは予算的にも少なくさまざまな面で問題がある」と明かしながらも「管理職の理解、地域とのつながり、外部でのPR活動などで今の活動ができている。高校の家庭科はこういうことをしているというのを是非知ってほしい」と語りました。



来場者は、自分が習った頃の授業内容との違いに驚きつつ、現在の家庭科教育について理解を深めていました。



自社の支援制度を紹介する日本政策金融公庫の飯田あゆ美さん

「hirosaki smart project 女性活躍推進異業種交流会」の今年度第2回交流会を9月12日ヒロロで開催しました。

今回は、日本政策金融公庫株式会社が幹事会社を務め、自社の女性活躍支援制度について紹介しました。

結婚や配偶者の転任などライフイベントに配慮した転勤制度。育児休業中も社内ネットワークを確保できる制度など、長く働き続けられる仕組みが整えられていることを紹介。さらに、先輩職員が若手女子職員にアドバイスをしてくれるメンタリング制度というものもあり、自分のキャリア形成の身近な目標ができるなど、モチベーションアップにつながっているという話に、参加者は興味深く聞き入っていました。

その後のグループ・ディスカッションでは働きやすさのためにどんな制度が欲しいかを話し合いました。女性の目線から消耗が激しい「ストッキング補助金」や「マッササージの優待券」、「家族の通院付き添い休暇」や「地域のイベント休暇」など様々なアイデアが出されました。参加者には人事や総務の部署の女性も多く、他社の休暇制度について知ることができたりと様々な情報交換があり、とても参考になる交流会となりました。



グループで話し合った女性ならではの提案を発表する参加者

★弘前市女性活躍推進企業紹介★

弘前市は、女性の雇用環境を改善し女性の個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に向けて、女性従業員の活躍推進に積極的に取り組む企業等を「弘前市女性活躍推進企業」として認定しています。

認定マーク



今号も、認定された企業の中から3社の取組内容をご紹介します！

認定番号	企業名	取組内容（一部）
第38号	幼保連携型認定こども園 堀越こども園	・非正規職員を対象とした正規職員への転換制度を就業規則で定めている。 ・育児・介護のために短時間勤務や時間単位の子の看護休暇の取得ができる。
第39号	幼保連携型認定こども園 石川こども園	・非正規職員を対象とした正規職員への転換制度を就業規則で定めている。 ・育児・介護のために短時間勤務や時間単位の子の看護休暇の取得ができる。
第40号	株式会社 佐藤長	・女性活躍推進法にかかる一般事業主行動計画に女性社員の採用目標割合を掲げ積極的に女性の雇用を図っている。 ・非正規社員から正社員への登用推進を行い転換実績をあげている。

弘前市女性活躍推進企業（第38号～第40号）



随時申請を受け付けています。
詳しくは、下記へお問合せまたは、市のホームページをご覧ください。
問合せ先：弘前市 市民文化スポーツ部 市民協働政策課
市民参画センター TEL0172-31-2500 FAX0172-36-1822

まなほ



このページは男女共同参画についての学びを深めようということから企画されているページです。

未曾有の震災を経験した日本。その後も様々な災害に遭遇してきた。今年も西日本豪雨、大型台風の襲来、北海道胆振東部地震と災害は続く。さまざまな情報が伝えられる中、自分が災害に遭遇したらどうするか…。今から自分にできることは？ 過去の災害から学ぶことは多いはず。

～災害、私たちの備えは？～



●自分の身は自分で守る……

「自助・共助・公助」という言葉がある。「自助」は自分の身を自分で守ることだ。青森県は今年、防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」を県内全世帯に配布した。地震や風水害だけではなく、火山噴火など災害ごと取るべき行動がとてもわかりやすくイラスト入りでまとめられている。あらかじめ備える物もチェックリストとして載っているの、家族構成や季節により必需品をプラス記入して活用したい。食品などは消費しながら蓄えるローリングストックを習慣づけると期限切れという無駄は防げる。「必ず食べる物だから」と考えれば購入時の気持ちの負担が少し減るのでは？ 北海道胆振地震では大規模停電の中、電池で聞くことができるラジオが大きな役割を果たしたという。とりわけ地元のコミュニティFM局は、地域の情報のみならず音楽を流すことで暗闇で過ごす不安を軽減する効果をもたらしたということだった。過去の状況も参考に自分なりに自分を守るための準備をすることが大切だ。

●混乱の中で避難所は？

平成25年に内閣府では「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」を出している。避難所の取組は、授乳室・男女別のトイレ（特に女性のトイレが混みやすいので増やす）・更衣室・物干し場など配慮したスペースを設けるなどとなっている。しかし、熊本地震の避難所における調査では、地震発生から一ヶ月の間に市町村が達成できた項目（平成29年度版 防災白書）で、男女別のトイレの設置や間仕切りによるプライバシーの保護・避難所の運営体制への女性の参画は徐々に改善されつつあるが、女性専用の物干し場の設置・性別や年齢による固定的役割分担に基づく運営をとらないこと・女性や母子専用エリアの設定の取組は低く1割を切る達成項目もあった。数字を見るだけでは、まだまだ必要なことがあると思われるが実際に避難所の運営となると、現場では大変な苦勞があり労力を要している。性別を超え全ての人々が協力して改善していくことが望まれる。

避難先での表面にでにくい問題に、女性や子どもに対する暴力・性暴力がある。報告されないものも合わせるとかなりの件数になるという。安心安全のため人権を守る取組が更に求められている。

●コミュニティの大切さ

甚大な災害の場合「公助」には限界があるといわれている。そのときに必要とされるのが「共助」といわれているが、地域コミュニティである町会活動も、現在は担い手不足や加入率の低下が課題となっている。町会加入の促進と、地域住民が集まるイベントやまつりなどでお互いを知り、関係を構築していくことがもしまものときの「共助」につながるかもしれない。特に弱い立場の高齢者、障がい者、子ども、情報が伝わりにくい外国人などにはサポートが必要になる。

災害は一瞬にして人々の生活を変えてしまう。時間を経ても東日本大震災や熊本地震で被災し仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方がまだまだたくさんいる。災害が発生してから時間がたった今、コミュニティが失われ以前より孤立している高齢者も多い。コミュニティはさまざまな場面で人の支えになるということは言うまでもない。

Q. 男女共同参画って知っていますか？

A. 知っています。ジェンダーフリーも勉強したことがあります。

Q. 現役時代、職場での女性の割合はどうでしたか？

A. 男の職場（郵便局）なので課によって違うけど、全体としては1：3くらいだったかな。

Q. 女性リーダーをどう思いますか？

A. 頼もしい。もっと多くのかたが出てほしい。

Q. 旅行は誰と行きますか？

A. 弘前勤労者山岳会の会員だったので大勢で各地へ行った。奥さんもそこにいた。（ニコッ）

Q. 山に登っている時、何を思い何を感じますか？

A. つらい下界でのくらしを一時忘れられて充実感を覚える。

Q. 40代でおじいちゃんになったとき、真っ先に何を考えましたか？

A. 若くして親になった子どもたちの生活＝仕事のことを考えた。奥さんは仕事を辞めて孫育て。私は経済面で協力、若いジジババだったからできたのかも。今は25歳から3歳まで10人のジジババです。（アッハハハ）

Q. これからの女性に望む事はありますか？

A. 我が家では娘3人と妻に対して、男は私一人。女性は強い!! 優しくして欲しい。（笑）

おとこの気持ち
聞いてしまいました



70代・無職・既婚

インタビューを終えて

～良い年齢を重ねましたね～

若いときはアウトドア、今はインドアのような。近所では歌の先生で有名な人である。老人クラブの歌唱指導をしている。クラブに出演依頼があり、弘前はもとより青森まで行っているようだ。楽譜が読めず、持続力の頼りない高齢者たちをハモルまでの域に根気強く指導できることは、寛容、穏やかさ、そしてユーモアのある人だからなのだと思う。

梅

～わたしの若いころには…～



還暦をとっくに過ぎ60代半ばに手が届こうとしているKさん。90代のRさんとの会話の中で…最近のRさん、ついさっきのことはすぐに忘れてしまうのだが、遠い昔のことは昨日のことにように記憶している。「あんだ、とし何ぼになるの？」とRさん。「もうすぐ65歳になりますよ」「だんなも働いでるのが？」「あら、もうだいぶ前に定年になって年金暮らしですよ」「ほお～世の中も変わったもんだのお」「何かおかしいですか？」「んだって、だんなが家さいて、あんだが働いているんだべ？」「そうですよ～今は世の中も変わって年とった女の人でも働けるところが結構あるんですよ」「おらも若いころだば働いたもんだあ、もっと働きたいと思ったけど、嫁っこさ出されだっきゃ、そこでおしまいだあ。家の中さ入れられて、子どもば背負って家の仕事ばり」「それが嫌だったの？」「まわりの嫁っこだちがみんなそうだったからそんなもんだべなと思っていただけ…一生懸命育てだ息子の顔もろくに見られないんだばのお～」と遠くを見つめるように語ったRさん。かける言葉が見つからなかったというKさんの話を聞いて、その年代に近づいたころ自分は何を考えているのだろうと…。

いつの世代にもある「わたしの若いころ」。そういえば「わたしの若いころ」は今では当たり前とも思われる共働きが増え始めたころで、結婚を機に「仕事」を続けるか「家庭」に入るかで悩む女性が多かった。仕事を続けたとしても育児休業の制度もなかったころだったから「出産」で仕事をあきらめるといった人もいた。そう考えるといい時代になったものだと…



さんかくひとりごと

「一緒に歩む仲間が人生の財産」

弘前じえんだあ学習グループ くまづき

★結成のいきなり

弘前じえんだあ学習グループ くまづきは平成十八年四月に横浜中華街で結成された。メンバーは弘前きらめき女性塾の卒業生たちが立ちあげた団体「きらめき会」で知り合った三人である。なぜこの三人だったのかは今もなお謎である。前日、私たちは千葉県松戸市で開催されたフォーラム「学びから実践へ Part 2 in まつどくわたし」と女性センター」に参加していた。松戸の女性パワーにおおいに刺激を受けた私たちは今後の学習への思いを新たにしました。翌日の昼食時、とりあえずグループ名をとることに「気づくことを大事にしよう」というメンバーの意向で命名された。

★学習の始まり

メンバーの一人が親しくしていた当時「さいたま市男女共同参画センター事業コーディネーター」の下村美恵子さんに私たちの学習会の講師を依頼した。その時快諾してくださった下村さんに「じゃ、何を勉強したい

の？」と聞かれ言葉に詰まってしまった。漠然と「女性学」としか考えていなかった私たちは下村さんに引っ張られるように学習を始めることになった。

★これまでの主な活動

グループ結成の翌月、平成十八年五月からさっそく「暮らしと女性学」と題して四回シリーズの講座を開始した。下村さんとの学習を始めてから私たちのグループは毎週水曜日を「学習の日」として定例化した。初めのころは、もっぱら講座のふり返りをしながら講座内容を記録として残す作業をした。四回の講座を終えて翌年三月に冊子「学びの記録」を完成させたときの満足感は言葉にできない特別な感情だった。私たちの学習の成果として参画日より「まなぼ」のページで報告させてもらった経緯がある。

プライベートでも何かと忙しいメンバーに特別なことがない限り集まり続け、気がつけば十二年を経過したことになる。この間いろいろな活動を続けてきた。「男女共同参画推進のための

講座」を主催し、講座の企画から運営までのノウハウを学んだことで、一年に一回は自分たちが講座を企画運営していくことを目標に掲げ実践することができた。特に好評だったのは「離婚を考えた時」を知って得する法律知識で、講師選びや講師依頼の作業などで苦労したが意義ある講座となった。町会などからの依頼で男女共同参画をテーマにした「出前講座」にでかけた。「秋の弘前公園を巡るガイドツアー」の開催。弘前市主催の「さんかくシアター」では上映作品の選定から運営まで協力した。今年も代表の強い思いでドキュメンタリー映画「つ・む・ぐ」と「麻てらす」の上映会を開催した。思いのほか多数の方々が集まってくださり大盛況だった。また新しい企画として活動資金のために「フリーマーケット」を開催してみた。

誰かが言い出したことに「否定することなく」その思いを共有し、楽しみながら進めていく。これはひとえにくまづきの活動に賛同して集まってくれる仲

間がいてこそできることでもある。

★今後

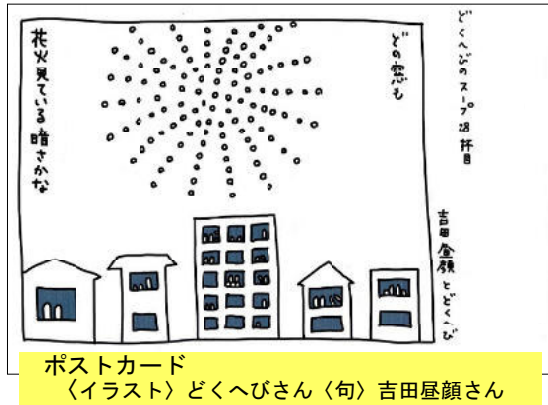
水曜日定例の「集まり」は今後も継続されていく。年一回の宿泊研修や数回の懇親会で親睦を深めながら、何かを実践した後は必ず振り返り、反省したことは次につなげる。日常生活の中で気づいた「これっておかしい？」、「それでいいの？」という疑問がその日の学習の課題になることもある。下村さんがいつもお話ししていた「女性問題は社会の問題として考える」ということを忘れず、私たちの学習はゆつくり一步一步進んでいく…。



吉岡敏朗監督（後方左）とドキュメンタリー映画「麻てらす」の上映会にて

俳句集団・弦

素敵な何かを探して



私たちは「俳句集団・弦」と申します。

会員は約27名。(2018年現在)青森県を中心に、北は北海道から南は九州、関東、四国にも仲間がおります。どなたでも入れます。そして出入りも自由で、その扉はつねに全開です。主な活動内容は、2ヶ月に一度の句会です。私たちは住まう地方も様々なので、Eメール等を駆使して会員の俳句をまとめられています。後日、作者をふせた100句あまりの俳句の一覧が、これもまたEメール等を用いて、

センター利用者に突撃インタビュー

10代・女子学生(2名)

◆センターの利用目的と利用頻度は?

☺高校1年生のときから利用しています。☺最近利用するようになりました。友だちからの紹介でセンターを知りました。土・日除いてほぼ毎日来ています。学校が終わって16:30~22:00まで大学受験のための勉強しています。

◆センターを利用してみたい感想を聞かせてください。

程よく静か過ぎず、うるさ過ぎず、食べ物も食べられます。仲間も夜遅くまでいるので居心地がよく安心感があり勉強しやすいです。また、学校から近く自転車で通える場所なので助かっています。

◆センターに何か要望はありますか?

いいえ、センターの職員さんは皆やさしい人たちなので特にはありません。

◆「男女共同参画」についての感想を聞かせてください。

学校で「政治経済の教科」で学習したことがあります。☺特別意識して生活をしている訳ではありませんが、私の家庭ではよく母から「女の子だから～」と言われることがあります。弟は男だからとおこづかいが多くて不満があります。こんなときに「なんで平等でないの!」と思います。☺私の家では双子の兄弟で弟がいますが、小さい頃から何も変わりなく平等に扱われてきているので特に感じていません。

親の職業や価値観が違うと平等でなくなるのかと感じる。親の育て方でこれから影響が出ると思う。学校で体育や家庭科などの教科では男女の学び方に違いが出るのは仕方ないと思うが特に分ける必要がないと思う。ランドセルの色も世代で変わってきたと思う。学生服は夏の衣替えのときに女子は白いブラウスにベストを着用(下着が見えないように)配慮してもらっていると感じる。いまさら男女平等と考えると思うことがあるけれど、学校ではそれ以外あまり感じないと思う。

◆受験が終わったら、何を楽しみにしていますか?

☺卒業旅行で京都へ行きたいです。☺テレビの韓ドラを見まくりたい!!(今は規制してがまん・がまん)。

応援しています!



男女共同参画の話では、いろんな思いを話してくれて盛り上がりました。特に不満ではないけれど、育ち方や親の価値観などでこれから影響するなどしっかりと考えていると感じましたが、これから邪魔をしてしまいました。これからますます寒くなりますから風邪には気を付けて頑張ってください。希望校に受かりますように祈っていますよ(*_*)のん

会員に送信されます。会員は、これは優れていると感じた句やとんでもないけれど選ばずにおれない句などを、各自の感性でだいたい10句ほど選句します。点数の集計や、鑑賞文は小冊子になります。編集、製本も会員自ら行います。打つ、刷る、切る、貼る等、アナログ制作で

す。小冊子には俳句の他にも、会員のエッセー、マンガ、地元イラストレーター、どくへびによる俳句コラボイラストが掲載されており、実にカジュアルな内容です。そんな私たちですが、初期メンバーの多くは、学校で教わる程度の俳句体験しかありません

でした。しかしその「知らない強さ」に導かれ、俳句という一見難しそうな文芸に、ステキな何かを期待してしまっただけです。そして今でも、ステキな何かを探し続けているのです。

市民参画センターからのお知らせ

「次期弘前市男女共同参画プラン」 の策定について答申しました

弘前市男女共同参画プラン懇話会（鳥飼宏之 会長）へ市長より諮問のありました「次期弘前市男女共同参画プラン」の策定について、慎重に審議を重ね及びパブリックコメントを経て平成30年10月16日に市長に対し答申が行われました。今後、市において年度内に策定される予定です。



弘前市男女共同参画プラン懇話会委員と櫻田市長

第8回市民ボランティア交流まつり

2019年2月10日（日）ヒロロで開催！

市民グループによる展示や発表会。バルーンアートの実演やスタンプラリー、パンやお菓子の販売もします。是非ご来場下さい！

◎休館日のお知らせ◎

弘前市民参画センターは
12月28日（金）～1月3日（木）まで
休館します。

編集後記

庭の木々が日に日に赤くなって“さあこれからは白の世界がやって来るぞ”と告げているようです。時の移ろいは早く、若いときはローカル線、今は新幹線にでも乗っているようである。でもある意味、逆算できる人生も充実感…と考えるのは私だけかな？ 梅

本の紹介

タイトル

「きょうだいさんのための本」

編集 しぶたね



～たいせつなあなたへ～

病気をもつ子どもの「きょうだい」たちは、子どものうちから、不安や寂しさ、罪悪感、プレッシャー、悲しみ、怒りなどの気持ちを抱えながら大きくなっていくという。子ども時代に抱えた経験、複雑な気持ちは、たとえ兄弟姉妹の病気が治っても、自身がおとなになっても、帳消しになるわけではなく、しんどい気持ちを抱え続ける。

保護者の方々もきょうだいのことを心配しながら、治療や病気のケアに追われて思うようにきょうだいと過ごせず、悩んでご自身を責めてしまうということが起こっている。きょうだいたちのしんどさをきょうだいや家族だけで抱えるのではなく、もっと社会のたくさんの人で関わっていきることがあるのではと感じ活動をひろげてきたのが「NPO法人しぶたね」である。

この本はしんどい思いをしている「きょうだいさんのための本」である。優しいイラストが両手をひろげてきょうだいさんたちを受け入れ、勇気づけてくれるような感じである。「NPO法人しぶたね」のホームページでダウンロードできる。ここでは「きょうだいさんのための本②」～おにいちゃん、おねえちゃん、おとうと、いもうとを亡くしたあなたへ～も編集している。2冊ともぜひ読んで欲しい。

きょうだいさんを支えるのは両親、おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさんだけだろうか？

お隣やご近所のおじさん、おばさんでもいい。同じ思いを感じて生きてきたお兄さん、お姉さんでもいい。「私にもできることがあるかもしれない」と思わせてくれるそんな本である。

by komori

【参画だよりに関するご意見、ご感想をお寄せください】

弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/sankaku/>

(市民文化スポーツ部 市民協働政策課 市民参画センター発行)

